

令和2年度第1回東京都高齢者保健福祉施策推進委員会

介護保険財政安定化基金拠出金率検討部会

<議事要旨>

日時：令和2年10月30日（金）午前10時00分から午前10時50分まで
場所：都庁第一本庁舎29階 29A会議室
出席：大竹部会長、吉田委員、古味委員、大谷委員、柳橋委員、武田委員
事務局：東京都福祉保健局 高齢社会対策部 介護保険課

議題：第8期東京都介護保険財政安定化基金の拠出率について

- ① 部会長の選任
- ② 財政安定化基金の概要
- ③ 各都道府県、都内保険者の状況
- ④ 財政安定化基金の運用見通し

議事内容：議題に沿って以下のとおり意見交換が行われた。

① 部会長の選任

委員の互選により大竹委員を部会長に選任

② 財政安定化基金の概要（資料4～5）

財政安定化基金の目的・仕組みや、これまでの基金残高、交付・貸付額の推移、拠出等の考え方について、事務局から説明

③ 各都道府県、都内保険者の状況（資料6～8）

各都道府県の財政安定化基金の状況、都内保険者の準備基金や給付費の状況について、事務局から説明

④ 財政安定化基金の運用見通し

今後の交付・貸付の見込み、基金残高の見通しについて、事務局から説明

<質問・意見等>

- ・区部では、各区の地域状況等についてアンケートを実施した。新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響で次期推計は困難という意見が多かった。所得段階の高い人の減少を見込んでいるが、見込む手法までは具体化していない状況。介護医療院の転換について、ほとんどの区が影響ないと回答。推計の困難さはあるが、都が拠出率0で乗り切れる見通しがあれば、引き続き0でいいとするという意見が大勢。少数意見として、貸付・交付見込を過去最大級で検討すべきという意見や、部会員に一任する等の意見があった。
- ・来期だけでなく、2025年、2040年のコロナの影響を懸念するという意見や、高齢者が不活発化しており、今後3年間の認定者数を推計するのが困難という意見があった。「見える化」システムの将来推計は、コロナを想定して作られていないため、コロナの影響で修正を加える場合も、その根拠が難しいという意見もあった。
- ・市部でも、各市の地域状況等についてアンケートを実施した。コロナの影響で、給付費推計や所得段階設定、所得段階別人数把握が難しいという意見があった。拠出率については、都の試算で拠出率0で乗り切れるとするなら、0でいいとい

う意見が大多数。少数意見として、過去最大級の貸付・交付を想定した拋出率と拋出率0という両極端ではなく、幅広く検討すべきという意見があった。

- ・町村部は、聞き取りにより地域状況等を調査した。コロナの影響により外出控えで運動ができないので、介護度が上がる人がでてくるかもしれないという意見があった。また、デイサービス利用が減り、代替として、訪問介護が増加している状況があった。拋出率については、本部会に一任という意見が大勢。